

チームアプローチについて

平成24年度 島根県社会福祉士会
会員研修会

2012/6/24

山口県立大 高木

1

今日、みなさんとわかちあいたいこと

- 定義の整理について
- ソーシャルワーク領域におけるチーム研究の動向について
- 今後の展望

2012/6/24

山口県立大 高木

2

社会福祉士及び介護福祉士法における連携に関する規定

社会福祉士は、その業務を行うに当たっては、その担当する者に、福祉サービス及びこれに関連する保健医療サービスその他のサービスが総合的かつ適切に提供されるよう、地域に即した創意と工夫を行いつつ、福祉サービス関係者等との連携を保たなければならない。
(社会福祉士及び介護福祉士法第47条第1項)

2012/6/24

山口県立大 高木

3

類似の概念について

(広辞苑より)

- 協働…協力して働くこと。
- 共同…2人以上の者が力を合わせること。
- 協同…ともに心と力をあわせ、助け合って仕事をすること。
- 共働…生物群集や個体群の間にみられる相互関係。共生的・敵対的・中立的、な関係に大別される。
- 連携…同じ目的を持つ者が互いに連絡をとり、協力し合って物事を行うこと。

2012/6/24

山口県立大 高木

4

概念の整理

- チームとは…
- ミシガン大学ターナー老人医療クリニックのルース・キャンベル(Ruth Campbell)によると、高齢者ケアにおいては、ソーシャルワーカー・医師・看護師たちがいっしょにチームを組んでいくことで、より包括的な評価・治療・ケアが可能となることを指摘している。
- このルースは、チームを「共通の目標を達成するために一緒に仕事をする人たちのグループ」と定義している。

2012/6/24

山口県立大 高木

5

概念の整理

- また、ケアマネジメントについての著書を持つイギリスのジョン・ウーベルバイトは、チームを「共通の目標に貢献するため、お互いに関係しあっている人々の小集団」と定義している。

2012/6/24

山口県立大 高木

6

概念の整理

- 前出のルースとウーベルバイトの定義をもとに、さらに横山(2010:10)は、「利用者やその家族が自立し、その生活の質を向上するために、共通目標を設定し、目標達成と成果について共通の責任を持ち対人援助サービスを行うために活動する保健医療福祉の分野のさまざまな専門職や関係者及び利用者本人や家族を含めた集団」と定義している。

2012/6/24

山口県立大 高木

7

チームについて

- 「チーム」とは…クライアントを中心に、同じ目的を達成しようとするための種々の立場にある者たちから構成される集団、といえる。チームを構成するメンバーは、専門職種だけとは限らない。なぜならば、「日常の暮らし、生活」とは、家族や隣人、機関の職員など、その人の、その時々状況によって、それぞれの立場にある人々との関わり合いの連続の上に成り立っているからである。

2012/6/24

山口県立大 高木

8

「チーム」ならではの特性

- チームとは、利用者やその家族を中心に、「その場(機関・事業所等)」において構成されるものというよりも、「それぞれの場(生活課題)」に応じて構成されつづけていくもの、と考えることができよう。

2012/6/24

山口県立大 高木

9

チーム・アプローチに関する先行研究について

- チームアプローチという概念そのものを用いた研究は、1960年代から見あたる(望月昴「心身医学的接近における諸問題—内科医よりみたチームアプローチの問題点—」『精神身体医学』72(2)P91-95、1967年)。

2012/6/24

山口県立大 高木

10

チーム・アプローチに関する先行研究について

- ソーシャルワークにおいては、1980年代から、リハビリテーション領域で報告されるようになってきた(浅田進ほか「8. ねたきり老人の在宅訪問サービス:医療・行政・福祉面からのチーム・アプローチによる展開(福祉・社会・職業)」『リハビリテーション医学:見本リハビリテーション医学会誌』20(6)P345-355、1983年)。

2012/6/24

山口県立大 高木

11

チーム・アプローチに関する先行研究について

- この間、リハビリテーション領域における在宅への移行に関する研究報告、また、医療ソーシャルワーク領域における医療チームの一員としてのソーシャルワーカーという視点からの研究報告のなかで、チームアプローチが論じられていた。

2012/6/24

山口県立大 高木

12

チーム・アプローチに関する先行研究について

- さらに、1999年頃からは、チームアプローチという概念での研究が見あたるようになった。
- それまでは、チームというキーワードで、精神保健福祉領域を含む医療ソーシャルワークの領域に関する研究が多く報告されていた。

2012/6/24

山口県立大 高木

13

チーム・アプローチに関する先行研究について

- その後、2000年代前半には、高齢者分野において、研究が報告されるようになってきた。
- 近年では、スクールソーシャルワーク領域におけるチームアプローチを視座とした研究報告が展開されている。
- このことから、チームアプローチが論じられてくる領域のその変化をおうことで、その時代における、ソーシャルワークの課題との関連性を見いだすことともなってくるのがうかがい知れる。

2012/6/24

山口県立大 高木

14

チームアプローチに注目している理由

- いわゆる“一人職場”のなかで、クライアントを中心に、いろんな職種のスタッフの力を持ち寄れる環境を作ることで、一人職場の限界を乗り越えようとした、という体験。

2012/6/24

山口県立大 高木

15

あるソーシャルワーカー、がやってみたこと…

- 他職種の動きをよく見る、スタッフの個性をよく見る。
- まずは、動く。→盆踊りでは、真っ先に、踊り出してみる…。
- 「ソーシャルワーカーの高木」の前に、「高木」そのものを知ってもらう。→「雑談の力？」
➡ 足場の確保ができた。

2012/6/24

山口県立大 高木

16

あるソーシャルワーカー、がやってみたこと…

- チームのメンバーとなるであろう人々と、関わりを持って、私自身が、その人同士のログ(コネクター)になっていく。
- 他機関の方とは…業務を通じて、知り合う。が、用事もないのに、立ち寄ってみる。
- 不動産業者の方と…用事もないのに、立ち寄ってみる。
➡ これで、他機関との関係作り？

2012/6/24

山口県立大 高木

17

すると…

- クライアントを中心に、ソーシャルワーカー自身が、各職種間をつないでいくという役割を持つこととなった。
→「〇〇先生に、ちょっと、伝えておいて。」
➡ これを支えたのは「雑用」の意味だった。

2012/6/24

山口県立大 高木

18

「雑用」の意味とは…

- 「雑用」でないものを取り出し、そうでないものを「雑用」視する。「雑用」とは、それぞれのワーカーのイメージのなかに、これがワーカーの仕事だとイメージしているからに違いない。だからそれ以外を「雑用」と位置づける。つまり、「雑用」という現実がそこにあるわけではなく、それぞれのワーカーの専門性に関する範囲や内容によって自ら規定していることになる。(住友雄資著「精神科ソーシャルワーク」、P23、中央法規出版)

2012/6/24

山口県立大 高木

19

チームの構造の類型化 (岩崎2009をもとに筆者作成)

	第1の要素	
	主幹・基幹、施設、精神科のチームワーク	主幹・基幹、施設、精神科のチームワーク
第1の要素	主幹・基幹、施設、精神科のチームワーク	主幹・基幹、施設、精神科のチームワーク
	主幹・基幹、施設、精神科のチームワーク	主幹・基幹、施設、精神科のチームワーク
	主幹・基幹、施設、精神科のチームワーク	主幹・基幹、施設、精神科のチームワーク
	主幹・基幹、施設、精神科のチームワーク	主幹・基幹、施設、精神科のチームワーク

出典：岩崎(2009)「第2章 チームアプローチの展開と実践」『新・精神科臨床士養成講座』精神科臨床士養成講座編集委員会編、中央法規。

2012/6/24

山口県立大 高木

20

チームにおけるリーダーと メンバー間関係(高木 2010)

- それぞれ固有の専門性を持った専門職から構成されていること。
- 各専門職種が果たすべき役割や機能は異なっていること。
- 利用者の支援にとって、その時々で利用者の状況は変わることから、その変化に適切に対応することがチームには求められること。
- それにはその状況に応じた職種がリーダーとなるほうが、よりチームのパフォーマンスを発揮できること。
- これによって、各専門職種は、支援内容についてチームとして共通の責任を持っていること。

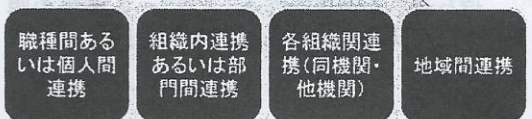
2012/6/24

山口県立大 高木

21

連携の4レベル

(谷岡・高坂・真野²⁾をもとに筆者引用改変)



2012/6/24

山口県立大 高木

22

チームを構成することで得られる メリット

- ①経過を通じて、お互いの知識や技術を知ることができて、共有することが可能となる。
- ②メンバー個々人が成長することが可能となる。
- ③適切な情報の共有によって、不必要な重複を避けることが可能となる。
- ④さまざまな視点・角度からの予測を総じることによって、対応の遅れを未然に防ぐことができる。

2012/6/24

山口県立大 高木

23

課題

- 「阻害要因がある、ということについて積極的に理解しておく」ということ
- 多職種が集まれば、自然発生的にチームアプローチが生まれるわけではない。さらには、専門職養成において、それぞれの職種が、それぞれ独立して専門性を発揮できるように教育システムを受けている場合には、さらに、そのことを困難にさせていくのではないだろうか。

2012/6/24

山口県立大 高木

24

課 題

- ・ チーム関係の前提条件について、アライアンスモデル (Alliance model) を援用しながら検討した谷岡・高坂・真野²⁾によると、連携が確立するためには、3つの要素が重要であると指摘されている。それは、①倫理観に基づく専門職間の相互の優しさと思いやり、②相互に影響を及ぼすこと(実践の中で教え合う)による知識の統合、③専門職間の連携から得られる社会的支援、である。

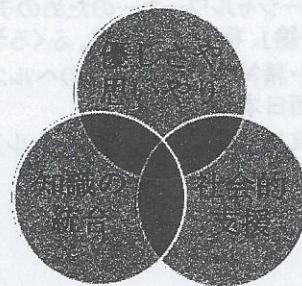
2012/6/24

山口県立大 高木

25

アライアンスモデル (Alliance model) を用いたチーム関係の前提条件

(谷岡・高坂・真野²⁾をもとに筆者引用改変)



2012/6/24

山口県立大 高木

26

学際的チームの必須の事項 (谷岡・高坂・真野²⁾)

- ① マナーと効果的なコミュニケーションによる信頼関係作りとしてのメンバー間の意思疎通、
- ② チーム目標の共有と遂行能力、
- ③ チームとしての技能の改善、
- ④ 治療とケアの質向上のための体制、
- ⑤ チームケアシステム、の5点である。

2012/6/24

山口県立大 高木

27

チームのメンテナンスに関する要点 (重岡 2010:102¹⁾)

- ① チームとしての目標が明確であること。
- ② 目標に基づいて構成メンバーの専門性に基づく役割が明確であること。
- ③ チームリーダーを決定し、役割と権限を明確にすること。
- ④ メンバーは、役割に基づく責任を果たせること。
- ⑤ チーム内でのコミュニケーションの方法が確立され、情報が共有化されていること。

2012/6/24

山口県立大 高木

28

チームのメンテナンスに関する要点 (重岡 2010)

- ⑥ メンバーの専門性に基づいて率直で多様な意見が言えること。
- ⑦ 意見上の対立があっても、整理、統合に向けての話し合いの場が機能すること。
- ⑧ メンバー間の相互支援が容易にできる体制であること。
- ⑨ 個人プレイをチェックする機能があること。
- ⑩ 他のメンバーやチーム全体の現状を理解すること。

2012/6/24

山口県立大 高木

29

今後の展望

- ・ チームそのものが社会資源となる。
- ・ 今後、ますます、社会福祉士の活躍する領域が拡大していくなかで、社会福祉士が果たす役割のなかでぶらすことのできない軸を柱にしつつ、長い時間的な経過を含めたうえでの「今」をとらえ、チームアプローチを展開していくこととなる。一つの大きな機能として、調整機能を持つ社会福祉士が果たす役割は、地域を支え続けていく上では必要不可欠であるといえる。

2012/6/24

山口県立大 高木

30

文献

- 1)「ソーシャルワーカーのためのチームアプローチ論」、横山正博編著、ふくろう出版。
- 2)「続・精神障害者のためのヘルスケアシステム」、西日本法規出版。
- 3)住友雄資著「精神科ソーシャルワーク」、P23、中央法規出版。

2012/6/24

山口県立大 高木

31

ご静聴ありがとうございました。

2012/6/24

山口県立大 高木

32